

**関西
ステンレス**

内外の追加値下げで市中値も続落

(大阪) 関西地区のステンレススクラップ相場は続落。高炉系大手が28日から10円の追加値下げに動き、今月の下げ幅を計20円に拡大。市中にも追随値下げが広がった。一方、韓国向け輸出大手の下げ幅は現状計15円にとどまるが、想定以上に入荷量が増えていることもあり、近日中に追加値下げに動く公算が大きい。需給の崩れで値下げの連鎖に拍車がかかる展開だ。

高炉系大手は28日から月内2度目の買値引き下げに動き、購入価格は表面上185~190円見当に下落。西日本地区の特殊鋼ミルは同日より10円下げで追随したが、中部地区ミル2社は輸出大手の下げ幅に合わせる形でひとまず5円下げにとどめた。ただ、中部域内の市中業者も先安を織り込んだ対応を取る向きが大半。国内ミルの制限購入が厳格化する中、関西地区の間屋筋らも大半が今月の納入可能枠を終えており、すぐさま値下げが浸透する動きとなった。

一方、輸出大手は27日から5円の追加値下げに動き、SUS304新切れの仕切り値は190~195円見当に下落した。高炉系大手の追加10円下げに対し高値が残る状況

下にあるため、大阪拠点ヤードでは持ち込みのトラックが列をなしている様子。ある納入筋は「足元は検収の強化もあり荷下ろしが停滞気味で、新規の持ち込み依頼は断っていると聞く。追加値下げは時間の問題だ」と指摘する。

ただ、指標ニッケル価格は現地27日、前日比1,080ドル高の2万3875ドルに大幅反発。今後の値動きに注目が集まる。

LMEニッケル・ステンレススクラップ相場推移

	LMEニッケル相場 (月平均) \$/MT	LME Ni在庫 (期末/ト)	ASIA SABOT \$/MT	フェロクロム鋼 高炭素品 \$/LB	為替相場 (TTS)
2020年平均・合計	13,773	246,708	1,198	118.75	107.82
2021年平均・合計	18,478	101,886	1,659	160.38	110.80
2022年平均・合計	25,638	55,476	1,929	189.25	132.43
2022年8月	21,998	54,612	1,780	188.00	136.24
9月	22,682	52,758	1,720	188.00	144.09
10月	21,936	52,134	1,620	157.00	148.19
11月	25,257	52,122	1,700	157.00	143.48
12月	28,854	55,476	1,740	157.00	136.09
2023年1月	28,240	49,374	1,730	157.00	131.35
2月	26,690	44,148	1,660	157.00	133.75
3月	23,262	44,304	1,490	157.00	135.26

※3月は27日までの平均値

韓国SUSスクラップ輸出量 3カ月ぶり 1万トンを超え 2月1万2千トンを

韓国のステンレススクラップ輸出量が3カ月ぶりに1万トンを超える実績となった。韓国貿易統計によると、2月の輸出量は前月比56.4%増、前年同月比2.1倍の1万2589トンだった。最大の向け先地であるインド向けが大幅に増加し、全体が押し上がった。

国別ではインド向けが最多で同2.2倍、同2.8倍の8,931トン。3カ月連続で前年実績を上回り、回復傾向を示した。次いで、日本向けが同41.6%減、同17.5%減の1,614トンを伸び悩んだ。

1~2月の累計輸入量は2万637トンを、前年同期比

韓国のステンレススクラップ輸出量推移

輸出向け先	2021年 (暦年)	2022年 (暦年)	2022年 11月	2022年 12月	2023年 1月	2023年 2月	2023年 (累計)
日本	26,842	25,442	1,723	2,460	2,764	1,614	4,378
インド	120,125	80,547	5,788	5,698	4,084	8,931	13,015
パキスタン	1,287	93					
台湾	7,134	7,429	342	127		357	357
タイ	1,873	3,283	297	334	186	167	353
中国	1,529	11,756	3,399	1,139	844	1,374	2,218
シンガポール	234	113	22			18	18
オランダ	834	437	126		84	65	149
その他	1,400	1,163	86		86	61	147
合計	161,260	130,262	11,783	9,759	8,048	12,589	20,637

(単位:ト)

(韓国貿易統計)

69.4%増となった。

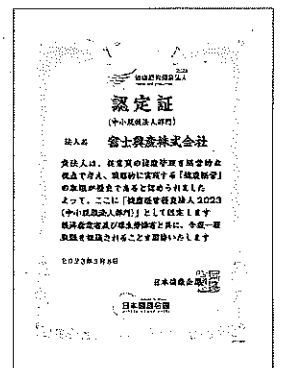
富士興産、「健康経営優良法人2023(中小規模法人部門)」に認定

(大阪) レアメタルやレアアースのリサイクル事業を手掛ける富士興産(本社=大阪市浪速区、赤嶺和俊社長)は8日、社員の健康維持・管理に関する取り組みが評価され、経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2023(中小規模法人部門)」の認定を受けた。

同社は昨年3月に健康経営宣言書を作成し、認定取得に向けて社内で専門チームを発足。チームが中心となって社員からアンケートや意見を募って健康課題や活動内容を選定し、昨年8月から活動を開始した。主だった活動は①健康ポイントアプリの導入②プールやスポーツジムの利用費を補助③禁煙チャレンジとして禁煙外来治療費を補助になる。

契機について赤嶺社長は「これまで社員の成長が会社の成長に繋がると考え、セミナーの受講や資格取得をサポートしてきた。しかし、体調管理を会社が指示

することは難しいので、健康を見直すきっかけになればと思い始めた」と話す。また新たに産業医と顧問契約し、社員の必要に応じて個別のカウンセリングも行えるようにするなど、様々な取り組みを実施している。活動の開始以降、効果は現れているようで、「スポーツジムに行かないような社員が定期的に行くようになり、またアプリを活用した歩数などを競うランキング機能も好評だ。今後も活動を通して、社員の健康意識の向上を図っていきたい」と(赤嶺社長)と語る。



健康経営優良法人2023・中小規模法人部門の認定証